

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 6 部門第 3 区分
【発行日】平成 17 年 10 月 20 日 (2005.10.20)

【公開番号】特開 2001-109769 (P2001-109769A)
【公開日】平成 13 年 4 月 20 日 (2001.4.20)
【出願番号】特願 平 11-289093
【国際特許分類第 7 版】

G 0 6 F 17/30

【 F I 】

G 0 6 F 15/403 3 8 0 C

G 0 6 F 15/40 3 1 0 H

G 0 6 F 15/403 3 4 0 B

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 6 月 29 日 (2005.6.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

電子文書のページや構成要素を画面に表示する電子読書システムにおいて、
画面表示した電子文書のページや構成要素を利用者が読んだか否かを当該ページや構成要素の表示時間に基づいて判定する操作判定手段を備えたことを特徴とする電子読書システム。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の電子読書システムにおいて、
操作判定手段は表示時間が予め設定した下限値と上限値との間である時に当該ページや構成要素は利用者によって読まれたものと判定し、
当該設定時間は任意に変更設定可能であることを特徴とする電子読書システム。

【請求項 3】

請求項 1 又は請求項 2 に記載の電子読書システムにおいて、
操作判定手段が判定した未読又は既読のデータを電子文書のページや構成要素に関連付けて記憶する操作履歴記憶部を備えたことを特徴とする電子読書システム。

【請求項 4】

請求項 3 に記載の電子読書システムにおいて、
操作履歴記憶部に記憶されている既読又は未読のデータを用いて、電子文書のページや構成要素と共に当該ページや構成が既読又は未読であることを示す表示を画面に表示する表示制御手段を備えたことを特徴とする電子読書システム。

【請求項 5】

請求項 3 に記載の電子読書システムにおいて、
操作履歴記憶部に記憶されている既読又は未読のデータを用いて、電子文書単位に関わらず、既読のページや構成要素を順次画面に表示する表示制御手段を備えたことを特徴とする電子読書システム。

【請求項 6】

請求項 3 に記載の電子読書システムにおいて、
操作履歴記憶部に記憶されている既読又は未読のデータを用いて、電子文書単位に関わらず、未読のページや構成要素を順次画面に表示する表示制御手段を備えたことを特徴と

する電子読書システム。

【請求項 7】

電子文書のページや構成要素を画面に表示する電子読書システムにおいて、
電子文書のページや構成要素の画面表示された頻度を判定する操作判定手段と、
操作判定手段が判定した頻度データを電子文書のページや構成要素に関連付けて記憶する操作履歴記憶部と、
操作履歴記憶部に記憶されている頻度データを用いて、利用者が指定した頻度条件のページや構成要素を電子文書単位に関わらず順次画面に表示する表示制御手段と、を備えたことを特徴とする電子読書システム。

【請求項 8】

電子文書のページや構成要素を画面に表示するコンピュータにより実行されるプログラムを記憶した記憶媒体であって、
画面表示した電子文書のページや構成要素を利用者が読んだか否かを当該ページや構成要素の表示時間が予め設定した下限値と上限値との間である時に当該ページや構成要素は利用者によって読まれたものと判定する機能を有したプログラムを記憶した記憶媒体。

【請求項 9】

電子文書のページや構成要素を画面に表示する電子読書システムが行う方法であって、
前記電子読書システムの操作判定手段が、画面表示した電子文書のページや構成要素を利用者が読んだか否かを当該ページや構成要素の表示時間に基づいて判定することを特徴とする電子読書判定方法。

【請求項 10】

電子文書のページや構成要素を画面に表示する電子読書システムが、操作判定手段と、操作履歴記憶部と、表示制御手段とを備え、
前記操作判定手段が、電子文書のページや構成要素の画面表示された頻度を判定し、
前記操作履歴記憶部が、前記操作判定手段が判定した頻度データを電子文書のページや構成要素に関連付けて記憶し、
前記表示制御手段が、前記操作履歴記憶部に記憶されている頻度データを用いて、利用者が指定した頻度条件のページや構成要素を電子文書単位に関わらず順次画面に表示することを特徴とする電子読書制御方法。